

学校の概要

1 位置

西内小学校の学区は、丸子町の西部にあり、西・南・北の三方を連峰に囲まれた谷間に、帯状に東西に細長く展開している。松本市との境の三才山峠に源を発し、東に流下する内村川と支流の霊泉寺川に沿って、農村型集落と耕地が分布している。

標高は、約600mから1,700mまでの高度差があり、人家は600mから800m位の間に分布している。
(西内・平井地区 戸数約500戸)

学校は人口分布の中央部より下方にあり、その位置は 上田市平井 1704番地 (穴沢)

・東経 138° 09' 30" 北緯 36° 18' 03" ・海拔 685m

2 沿革の大要

- 明治 7年 彝倫(いりん) 学校を戸羽の薬師堂に開設する。
研性学校を高梨の町地区に開設する。
- 11年 彝倫・研性両校が合して内村学校となり、大塩に開設する。
- 21年 温習科(後の補修科)が設けられる。
- 28年 現在地に校舎を新築する。
- 34年 西内女子補修学校を併設する。
- 大正 8年 内村川原に運動場ができる。
- 9年 校舎を改築する。
- 23年 西内学校同窓会発会する。
- 昭和 19年 杉並第九小 290名・第七小 349名の疎開を受け入れる。
- 21年 入山冬季分室(分教場)開設する。
- 22年 6・3制により、西内中学校が発足する。
- 23年 青年学校(補修科の後身)が開校する。北校舎を新築する。丸子実校の分校を併設する。
- 28年 体育館を新築する。
- 29年 西内中学校が丸子中学校に統合される。
- 33年 プールを設ける。
- 37年 創立80周年記念に校歌・校旗・校章を制定し、郷土資料室を作る。
- 38年 入山冬季分室は、この年をもって終わりとする。
- 49年 創立100周年記念として郷土室を作り、校歌碑を建立する。
- 54年 校舎改築のため、中校舎・南校舎・体育館・プールを取り壊す。
- 昭和 55年 プール・本館・管理棟が完成し、北校舎を取り壊す。
- 56年 体育館が完成し『天女の笛』のブロンズ像ができる。新校歌が制定される。
- 61年 新校歌碑を建立する。
- 63年 登り窯が完成する。
- 平成 元年 各教室へ、テレビ・ビデオ機器、放送室へ放送機器を新設する。
- 3年 プール全面塗装。パソコン(富士通)2台設置。
- 4年 ソニー教育資金贈呈事業へ初募集、優良校(全国67校)を受賞。
上小小学校教育課程研究協議会「道徳」の会場校となる。
- 5年 初めてPTAバザーを実施する。(出品2500点)
- 6年 『開校120周年記念式典』記念音楽会、記念祝賀会、記念誌発行、テレカ作成、動物小屋新設、登り窯改築等実施する。第39回「ソニー教育資金(努力校)受賞する。
- 7年 平成7年度長野県学校安全優良校で表彰される。トーテムポールに道標を取り付け、地区内4か所に設置する。100回記念校庭運動会が開かれる。視聴覚室にパソコン(富士通)12台設置し、パソコン教室とする。食堂へテーブル20台・いす120脚を入れる。
- 8年 上小小学校教育課程研究協議会「特別活動」の会場校となる。PTA同和教育部会「同和教育だより」発行と現地視察実施。登り窯作品は平成9年4月博物館にて展示。玄関前修理に伴い「なかよし」の像を移動する。
- 9年 上小PTA研究集会で同和教育の実践を発表する。
- 10年 文部省「へき地教育研究指定校」となり、10月に中間発表を実施。
卒業記念制作の校歌陶壁の除幕式を行う。
- 11年 文部省「へき地教育研究指定校」で、11月に発表を実施。卒業記念制作の木彫りの校章の除幕式を行う。
- 12年 卒業記念にタイムカプセルを埋め、目印としてトーテムポールを立てる。

- 13年 みどりの少年団へ加入し、結団（団旗授与）式を4月に行う。水産庁外郭団体「大日本水産会」と共催でお魚フェスタ（全国3校）を実施する。PTAバザー収益金で楽器補充と登り窯煙突嵩上げ工事を行う。
- 14年 上小小学校教育課程研究協議会「理科」の会場校となる。卒業記念品として、演題カバーが贈呈された。
- 15年 校舎改修工事が始まり、教室棟の1階から3階まで完成し第一期工事が終了した。
- 16年 上小小学校教育課程研究協議会「生活科」の会場校となる。第二期工事の管理棟・体育館の改修が終了し、すべての工事が終了した。
- 17年 金管バンドが全国小学生バンドフェスティバルで上位12校「グッドサウンド賞」を受賞した。6年生が新潟リコーダーコンテストで金賞を受賞した。
- 18年 金管バンドが東海大会シード校として出場した。昨年に続いて全国大会出場の栄に浴しグッドサウンド賞を2年連続受賞して県教育委員会に表彰された。
- 19年 19年間の焼き物体験活動が評価され財団法人博報児童教育振興会から第38回「博報賞」を受賞した。第2回地域作品展を実施した。上小教育課程研究協議会「図画工作科」の授業校となる。プールサイドの補修を行った。
- 20年 県視覚・放送教育研究大会上田東御大会で音楽科授業会場校、丸子中ブロック人権同和教育研修会の授業校となる。金管バンドが東日本優秀演奏会に出場し、審査員特別賞を、SBC子ども音楽コンクールで優秀賞を受賞した。TBS「情熱大陸」で金管バンドが放映された。
- 21年 全校日食観察会が行われた。金管バンドが県小学生バンドフェスティバルでパワフルスイング賞を受賞し東海大会で銀賞を受賞した。卒業記念品として体育館に大型スクリーンが贈呈された。
- 22年 セレスホールで第5回地域活動展が実施され、全校児童の登り窯作品を出品し好評を博した。金管バンドが県小学生バンドフェスティバルでグレートスイング賞を、東海大会で金賞を受賞した。SBC子ども音楽コンクール及びTBS子ども音楽コンクールで優秀賞を受賞した。6年生全員が県統計グラフコンクールに出品し学校賞を受賞した。ランチルームに空調設備が設置された。
- 23年 第6回地域活動展開催（鹿教湯交流センター）。金管バンドが県小学校バンドフェスティバルでスーパー・マジック・プレーヤーズ賞を、東海大会で金賞を受賞した。SBCこども音楽コンクールで優良賞を受賞した。東日本大震災関連の募金活動に対し、上田市より青少年善行表彰を受けた。
- 24年 全校金環日食観察会が行われた。第7回地域活動展開催（鹿教湯交流センター）。金管バンドが県小学校バンドフェスティバルでスーパーアンサンブルユニット賞を、東海大会で金賞を受賞した。SBCこども音楽コンクールでかんでんパパ賞を受賞した。
- 25年 校庭に戦争の松説明看板が設置される。第8回地域活動展は大雪のため中止となる。金管バンドが県小学校バンドフェスティバルでワンダフル・アンサンブル賞を受賞し、東海大会で銀賞を受賞した。SBCこども音楽コンクールでは優良賞を受賞した。
- 26年 上小教育課程研究協議会「特別活動」、丸子中ブロック人権同和教育研修会の授業校となる。金管バンドが県小学校バンドフェスティバルでブラボーハイテンション賞を受賞し、10年連続東海大会に出場する。体育館の耐震工事を行う。
- 27年 東映映画『おかあさんの木』のイベント読み聞かせで、鈴木京香さん来校。県小学校バンドフェスティバルでブライツサウンド賞受賞。東海大会に出場する。
- 28年 金管バンドが県小学校バンドフェスティバルでスペシャルミュージシャン賞を受賞し、東海大会で金賞を受賞。10年ぶり3回目の全日本バンドフェスティバル（大阪城ホール）に出場して銀賞を受賞した。また、JBF九州大会に東日本代表として特別出場して審査員特別賞を受賞。さらに太田市で行われた大学ジャズフェスティバルに特別出演するなど、精力的な演奏活動をした。地域での演奏活動も充実して、上田市青少年善行表彰を受けた。長野県教育委員会表彰も受けた。6年生児童会代表がいじめ防止子どもサミットNAGANOに参加して、日常の取り組みを発表、意見交流をした。第10回地域活動展（鹿教湯交流センター）が行われ、金管バンドも演奏参加する。
- 29年 金管バンドが県小学校バンドフェスティバルでファンキージャクソン賞を受賞し、東海大会で銀賞を受賞する。2018全国小学校管楽器合奏フェスティバル東日本大会（会場；横浜みなとみらい）に出場する。4・5・6年生児童がNHK長野放送局番組「ひるとく」に生出演し、小田ルイさんと一緒に「奏日和」を歌う。地域に根ざした教育活動が評価され、文部科学大臣優秀教職員表彰を受ける。
- 30年 金管バンドが県小学校バンドフェスティバルでブラビッシモパレード!!賞を受賞し、東海

大会で金賞を受賞する。2019全国小学校管楽器合奏フェスティバル西日本大会（会場；神戸文化ホール）に参加する。へき地教育上小支部教育研究会が本校にて行われ、授業を公開する。

令和元年 10月13日の台風19号により、西内・平井地区で多数の被害が出る。東海大会出場を辞退。

11月に地域の方に元気になってもらいたいという願いで、金管バンドが復興応援コンサートを開く。

2年 昨年度の復興応援コンサートが評価され、金管バンドが上田市青少年善行表彰を受けた。「全力演奏届けよう！応援コンサート」を開催し、コロナ禍で大変な皆さんにがんばろうの応援メッセージを伝えた。

3年 金管バンドが県小学校バンドフェスティバルでベストロックサウンド賞を受賞し、東海大会で金賞を受賞する。一部教科担任制を実施し、「全児童を全職員でみる」実践を進めた。異年齢グループで学び合う学習の場づくりについて研究を深めた。

4年 金管バンドが県小学校バンドフェスティバルで、のりのりアームストロング賞、東海大会で銀賞を受賞する。教育課程研究協議会で国語授業公開。信濃教育会第26回教育研究論文・教育実践賞に応募し、研究グループの部で特選受賞『対話する必要感と対話経験が豊かな表現への第一歩』